

Person of the Month

誰もが、様々な場所で経験した3.11。毎回色々な「この人！」をクローズアップし、3.11後の生き方をご紹介します。

昨年6〜10月に開催されたベターデイズプロジェクト主催「ライブ&セミナー第三ターム」で、音響機材に電力を供給してくれた通称「亜紀ちゃん号（ソーラー発電システムを積んだ軽自動車）。今回お話を伺ったのは、その開発者である株式会社トミタ代表取締役 佐山廣和さんを、同社常務として、また妻として支えておられる佐山宏子さんです。

小さな金物屋として創業

「現在ソーラーシステムへの取組みが突出しているトミタですが、1969年の創業当初は、灯油販売も行う小さな金物屋でした」。ちょうど高度経済成長の第二期、3年後にJR新札幌駅が開業、これを起点に札幌副都心計画が進められようとしていた頃です。

「住宅がどんどん建ち、灯油暖房にシフトされた時期。お客様は増え続け、トラックで灯油を配送していた父は風邪をひいても、自分が行かないとお客さんが凍えてしまうと、無理を押しして動いていました。そうした中から今も続く地域密着の経営方針が育まれたのでしよう。そして必然的に設備交換工事や住宅リフォーム工事も手がけるよ

「エコも音楽も」楽「こ」が一番

ライブ&セミナーでは一昨年、通常電源と太陽光発電を切り替えながらギターアンプを鳴らしてみる実験を行いました。筆者はそのギターを弾いていた張本人であり、クリアで音庄の出る太陽光発電にびっくりしたのを覚えています。来場者の方々も「明らかに違う」と仰って下さいました。そして昨年はトミタさんにご協力いただき、オフグリッド太陽光発電システム搭載車、通称「亜紀ちゃん」に毎回給電を依頼することになったのです。宏子さんもお手伝いに駆けつけて下さいましたが「実は自分で歌うのは苦手なんです。でも演奏者と観客の距離が近いライブ&セミナーを見て、音楽って良いな」と再認識しました」とのこと。エコライブも音楽も、楽しみながら実践するのが一番ですよ。

取材／indy横山 撮影／小森宇 撮影協力／Plantation



うになっていきます。

エネルギーへの思い

2000年代になり、トミタで働き始めた宏子さん。その中で資源価格への疑問が首をもたげていきます。「灯油の価格がどんどん上がっていくんです。それも30円から40円、50円というように大きな幅で。生きるためになくてはならないエネルギーの価格が、消費者の手の届かないところで決められてしまつことに恐怖さえ覚え始めました」。国際情勢や為替によって大きく左右される原油価格。1993年の北海道南西沖地震や1995年の阪神・淡路大震災では、インフラが破壊される恐ろしさも目の当たりにしていました。「灯油？ ガス？ 電気？」。誰もが得ることができ、その製造過程で極力リスクの少ないエネルギー源への思いは強くなっていったそうです。



Better Music for Better Days



「いま俺たちは、正しく怒らなきゃいけないと思う。それが憎悪になったらあかん。」

真つすぐに目を見つめながらそう話すのは、ソウル・フラワー・ユニオンの中川敬さんだ。3・11後を生きる一人として、遅々として進まない復興や原発事故の処理、この国が進もうとしている方向に対しての気持ちを、彼は「正しく怒る」と表現した。

3・11の十一年前、1995年一月十七日に発生した阪神・淡路大震災の直後から「出前慰問ライブ」を行い、音楽の力で震災被災者を励まし続けたソウル・フラワー・ユニオン。電力がまだ復旧していない中、メガホンや拡声器を使って歌声を届けたという。

そんな活動を1ヶ月ほど続けた後、被災地の空に浮かぶ月を見上げ、中川さんが音楽仲間であるヒートウェイウの山口洋さんと共作していたメロディを元に書き上げた曲、それが「満月の夕（ゆづべ）」だ。震災後の街の姿、懸命に命を繋ぐ人々を思い歌うこの曲は、いつしか被災した人たちに力を与

ターニングポイントは太陽光

「これからは太陽光発電じゃないかな？」。ある日、夫の廣和さんが呟いた一言から、お二人の行動は一気に加速します。2010年に入ると廣和さんは太陽光発電の様々な講習会に顔を出し始めます。太陽光発電の大きな可能性に胸をときめかせる日々。東日本大震災と福島第一原発の事故が発生したのはまさにそんな折りでした。宏子さんはその翌年から北海道大学で開催された持続可能エネルギーのセミナーなどに参加し始めます。「太陽光は等しく地球に降り注いでいます。これを生活に取り入れていくことができれば、エコリカルで安全な社会に繋がるのではないかと確信しました。」

昨年3月には一般財団法人省エネルギーセンター認定「家庭の省エネエキスパート診断・指導級」を取得。お客

え、心を繋ぎ、勇気を紡ぐテーマソングとなっていた。

2011年三月十一日、東日本大震災が発生する。かつて神戸の街で、目を覆いたくなる惨状に折れそうになっていた人々の心に音楽で寄り添い、命の水を注いだ彼は、今度は東北の地に明日への希望を込めてこの歌を届けていた。だからこそ、命よりお金を優先するような今の日本の姿に、「正しく怒る」。気持ちを強く感じたのではないかな。

月は自ら光を放たない。太陽の光を受け、その光を反射して夜空に浮かんでいる。「満月の夕」。この歌が放つ光を反射するようにして、一人一人がそれぞれやり方でこれからの未来を照らす灯りを灯せたらと思う。納得がないことには「憎悪」の気持ちを抱くのではなく「正しく怒り」、それ以外のことには穏やかに寄り添いながら。

「満月の夕」ソウル・フラワー・ユニオン



様の自宅を訪問し、各家庭の光熱費やCO2排出量を「見える化」することで各家庭の住まい方やライフスタイルに合わせた適切なアドバイスや提案を行うというもの。専用ソフトを使うので人間の感覚ではなく数値による診断が可能なのです。「省エネ診断では、今まで当たり前と思っていた生活習慣が実はもの凄く大量のエネルギーを消費していたという発見があるかもしれません」。この診断はまさに省エネの第一歩と言えるでしょう。

さらに宏子さんはこう続けます。「世界とか地球環境と言われても、あまり実感を持ってない方も多いのではないかと思います。しかし毎月の電気代、灯油代、ガス代を減らせるとなれば誰だって関心を持ちますよね。楽しみながらエコを実践する人が増えることによって、やがては地球単位で大きく時代が動くと考えています。」

長く使う = 捨てない = ECO

長く使える、実用的な宣伝商品は結果的にお得だと思いませんか？

株式会社 **プリント・アイ** TEL (011) 665-0098 FAX (011) 665-0035
E-mail: info@print-eye.com http://www.print-eye.com

- 一般印刷
- B5、A4クリアファイル
- 変形型クリアファイル
- カラー印刷ビニールポーチ
- その他、各種印刷